

収益構造改革計画の強化策について

当社は、昨年11月、極度に厳しい業績状況に鑑み、事業環境の変化に素早く対応し、早急に利益計上可能な企業体質を実現するため、収益構造改革計画を策定し、全社一丸となって取り組んでまいりました。本年は、同計画の初年度として何としても業績を水面上に浮上し、V字回復させることを第一義に全員で必死になってコスト改善などに努力を傾注いたしてまいりました。当初のコスト削減は、概ね計画通り進めてまいりましたが、予想を上回る円高・原料高に加え、コストダウン以上の売価低下等、このままではV字回復の達成は極めて困難な状況となってまいりました。従いまして、改めて一日も早い収益の回復を期すため、今般、本計画の抜本的な見直しを行いました。以下がその強化策であります。

1. 強化策の骨子

厳しい事業環境に適応するため、当社の経営資源を販売規模に見合うよう再整備し適正化を図る。

コスト構造の抜本的改善

組織の簡素化と、製造設備の統廃合を早期に実施し、少数精鋭化を図る。

ア 組織の簡素化 / フラット化

本社組織を廃止し、管理間接部門（スタッフ部門）が製造、販売、研究のライン部門を直接支援する簡素な組織に改組する。 簡易な組織でスピードアップ

製造部門については、課を統廃合し技術スタッフの充実を図るとともに、オペレーターの多能工化を推進する。

職階の削減により責任の明確化を図る。

イ 設備の統廃合

小規模および老朽化が進んでいる複数のプラントについて、2003年3月に生産を停止し、競争力のあるプラントへの集中を図る。

ウ) 人事の改革

出向の強化と転進支援制度特別措置の実施により、100人規模の少数化を早期に実現する。

職務給制度の導入や裁量労働制の適応拡大により、職務と成果と処遇のミスマッチを改め、成果主義を徹底する。

業績責任を明確にするため、役員、管理職については、月例給与カットを10月からさらに強化する。

製品ポートフォリオの明確化

販売力に見合った研究資源投入を前提に、医薬品にとどまらず機能性化学品分野へ資源の配分を推進し、開発スピードを高める。

研究テーマ対象製品群を絞り込み、当社が得意とする製品や技術分野に特化する。

開発組織を改組し、既存営業とのシナジー効果を高める。

大阪工場の小規模液相生産プラントおよび研究部門の液相試製プラントを統合することにより、効率的な試製造体制を構築し、開発スピードを上げる。

多価アルコール事業の再構築

従来から進めてきた多価アルコール事業の再構築を実施に移す。

ペンタリットは、プロセス設備の合理化を一層進め、競争力を強化する。

トリメチロールプロパンは、他社との提携も視野に入れ、事業の存続を図る。

2. 計画目標

(億円)

| | (予想) 2002年度 | 目標 | | | |
|-------|----------------|--------|--------|--------|--------|
| | | 2003年度 | 2004年度 | 2005年度 | 2006年度 |
| 売上高 | 195 | 200 | 210 | 219 | 226 |
| 営業利益 | 5.6 | 4.1 | 12.3 | 14.2 | 15.9 |
| 経常利益 | 9.7 | 2.9 | 10.2 | 12.6 | 14.3 |
| 税引後利益 | 9.1 | 2.3 | 4.9 | 7.1 | 8.2 |

3. 本件に関するお問合せ先

広栄化学工業株式会社 総務人事室
(TEL:06-6204-1515)

以上